



閉会式・鳩山前首相が参加

全体会に引き続き、同じ会場で閉会式が行われました。

閉会式では、鳩山前首相や坂口岳洋衆議院議員をはじめとする、多くの来賓の皆様のご参加のもと、冒頭に、山梨県立谷村工業高等学校の渡邊誉章さんと、岐阜工業高等専門学校の渡邊倫子さんによるサミット宣言が力強く読み上げられました。

来賓としてあいさつをされた鳩山前首相は、「身近な水車は地球温暖化対策を進めるためのカギ」として、小水力発電をより一層推進するため今回のサミットの成功を高く評価しました。

また、全国的な注目を集めている本市の「元気くん」についても触れ、かねてから視察に訪れてみたかったことや、建設に際して「つるのおんがえし債」による「市民協働」という形で建設されたことを高く評価しているというお話をいただきました。



そして、今回のサミットの実行委員会副会長である、山梨大学大学院医学工学総合研究部教授の鈴木嘉彦氏が閉会のことばを述べ、「このサミットの内容を、小水力発電の発展や、農山村の地域活性化などの一つのきっかけとして生かしてほしい」とお話されました。

また、今回の開催地は富山県黒部市と決定され、都留市から黒部市へ引き継ぎが行われました。

なお、鳩山前首相と坂口岳洋衆議院議員は、サミット終了後、市役所を訪れ、元気くん1号・2号、また、エコハウスや植物工場を熱心にご覧になり、都留市の小水力発電をはじめとした、環境に係る積極的な取り組みに対して非常に関心を寄せられていました。

サミット宣言

富士山の裾野に広がり、豊かな水に恵まれた都留市は、日本の水力発電発祥の地のひとつです。

多くの水車によって織物産業を興した都留市の先人は、
いまから105年前に市民が資金を出し合って、小水力発電所を建設しました。

都留市民はふたたび小水力発電に挑み、
都留市は元気くん1号と元気くん2号の2つの市民水力発電所を有する小水力発電の先進地となりました。

この都留市に、小水力発電に関心を寄せる人々が全国から参集し、
日本で初めての小水力発電サミットが開催されました。
そして、2日間にわたるサミット期間中に、多くの先進事例が紹介され、熱い議論が交わされ、
参加者は小水力発電を普及させたいという思いを深めました。

記念すべき第1回サミットに参加した私たちは、
本サミットのテーマ「流れる水で地域が輝く」のとおり、
日本における小水力発電の復興を願い、次のとおり宣言します。

- 1、農山村の活性化と地球温暖化防止に貢献する小水力発電をいっそう推進します。
- 2、小水力発電の普及における課題の解決に向け、力を合わせてともに行動します。

2010年10月17日
第1回全国小水力発電サミット in 都留 参加者一同